

市政を問う

今定例会では6月11日、12日、13日に一般質問が行われ、17人の議員が質問に立ちました。

その主な内容を、紙面の都合上、1人2項目以内に要約して掲載しました。掲載事項は、発言議員本人からの寄稿によるものです。

詳細な内容は、会議録を製本の後、三原市議会事務局、市役所情報公開コーナー、三原市中央図書館に置いています。また、三原市ホームページでも閲覧できますのでご覧ください。(会議録の製本には、議会終了後おおむね3カ月を要します。)

HPアドレス <http://www.city.mihara.hiroshima.jp> → 市議会 → 会議録検索

庁舎整備について市長の思いは



あらい しずひこ
荒井 静彦 議員

問 耐震診断の結果、現庁舎のほとんどの階でI S値0・3を下回り、震度6以上の地震で倒壊または崩壊の危険性が高いことが判明した。

この結果を見てもまだ市長は「使えるものは使う」と言われるのか。合併特例債の期限を考えると悠長にはしておれないが天満市長自らの考えを聞きたい。また、他の建設候補地の中に駅前は入っているのか。

答 使えるものは使うという考えは現在も変わらないが、耐震性や設備の安全性に大きな問題を抱えており、たとえ補強、改修しても防災拠点施設としての機能を確保できないことや、コスト面を考慮しても現庁舎を使うことは難しいと思っている。

また、仮に建て替えるとしても建設地について

の想定はないが駅前建て替えるという考えもない。まちづくり戦略検討会議でも「公共による支援(図書館等)を含めた民間による開発」との意見を頂いており、その方向で調査検討していきたい。

市職員のボランテニア手帳の導入について

問 本市の職員873名全員が、地域を支える貴重な人材の一人であることを自覚し、「わたくし」の立場で、様々な地域の活動に参加・参加すべきでは。この様な職員個々の活動を、人事評価制度にも取り入

れ、そのためにもボランテニア手帳のようなものを配布し、いつどこでどのような社会貢献活動をしたかを記録し、ボランテニア活動等実践の励みにできないか。

答 ボランテニア活動はあくまでもプライベートの領域に属することであり人事評価の制度には受け入れられないが、職員としての立ち場を離れても、社会貢献を行うことの重要性について学ば協働のまちづくり研修を行っている。ボランテニア手帳の導入も含め、社会貢献参加促進の手段について検討したい。



三原市役所本庁舎



たかき たけこ
高木 武子 議員

南小学校、放課後児童クラブの条件整備について

問 通学路の指定、安全確保の状況について。

答 再点検をし、安全なルートの設定・信号機設置、横断歩道、歩道の拡幅、着色塗装などの実施や見守り体制の強化を図った。

問 下校時の見守りと、国道の地下道の安全対策について。

答 下校時の見守りについては、南小学校地域支援本部の中で継続協議する。地下道については、今後も安全状況を把握し、所要の対策をしていく。

問 校庭の芝生化について、当面する取り組みと、今後の取り組みについて。

答 学習会を行い、芝の植え付けや管理について、専門家の指導のもと協議を進めてきた。芝植え付けに向け人員体制の調整を行い、児童は勉強

会を開催した。

問 地域支援本部の方には、芝刈りや肥料散布等、年間を通じた維持管理をお願いするが、児童も補植など日常的な管理の一部を教職員とともに担う。

問 地域支援本部の体制の具体的な考え方、教職員の労働強化にならないか。

答 協働事業として取り組みを充実、発展させ、関係協力団体の拡大も図っていく。教職員も含めて役割分担をして取り組む。

問 学校を核にした市民協働のまちづくりのモデルにする決意は。

答 教育委員会もしっかりかかわっていきながら、三原の誇りになるような学校にしていきたい。

問 放課後児童クラブの

日よけ対策について。
答 教育委員会及び南小学校と協議の上対応する。

自治基本条例の制定について

問 「自治・分権・参加」基底に据えたまちづくり。

自治体の憲法に当たる自治基本条例が、平成13年北海道のニセコ町でつくられ、現在308市町村で制定されている。

問 本市における考えと今後の取り組みについて。

答 市民全体の自治基本条例に対する一定の理解が進み、市民参加による市民と議会、市民と行政の協働のプロセスが重要であるとの認識のもとで引き続き検討する。



南小学校芝植え



しちかわ よしあき
七川 義明 議員

市庁舎建設の早期決断について

問 三原市庁舎等耐震診断及び整備方針検討支援事業報告書が提示された。調査表は各5案に分

類されている。市長はこの5案を尊重されこの案をもとに決定する意思と理解する。

今後早期に決断の時期方向性を明らかにし事業実施に向かうべきと考えが見解を問う。

答 合併特例債発行期間の5年延長という期間は迫っている。本年12月までに結論を出し遅滞なく予算措置を進めていく。

問 ②中心市街地活性化について

ペアシティ東館跡地の活用について今日までやっさ祭りのメインステージや一年を通じ各イベント開催があり市民にとって意義の大きい跡地利用となつてはいる。跡地と捉えるのではなく市民にとって意義ある有効なる場所であるこれまでの利用状況成果を問う。

答 ①新事業である地域商業活性化支援事業の意義は中心市街地を除く周辺地域における店舗の改修費、家賃の一部について補助し既存店舗の経営支援・

存続を図り、地域における買い物環境の改善、新規事業の創出しやすい環境整備を図っていくこと。

従来の新規出店



三原市役所本庁舎

支援事業については、これまで24店舗が事業を継続し、空き店舗率を改善しており、支援策としての成果は上がっている。賃借料の補助の延長については、新規出店者を継続的に支援する官民の体制の構築として検討する。

問 ②駅前東館跡地の存在意義については、やっさ祭りははじめ昨年度87回の利用があり、市民広場については、中心市街地のにぎわい創出や誘客等に大きな役割を担っている。この役割を中心市街地全体でどのような形で継承し発展させるかを検討し、中心市街地活性化基本計画に盛り込む。



しょうた やまいち
正田 洋一 議員

駅前東館及び庁舎整備について

問 平成26年度の市政の大きな課題として「庁舎整備事業」「駅前東館跡地活用事業」がある。両事業とも合併特例債の活用を目指すのだと思う。庁舎整備事業は、修繕・建て替え・移転等の5案が示されている。駅前東館跡地活用事業は、まちづくり戦略検討会議の答申では公共民間複合施設として、図書館・ホテル・駐車場棟の3棟の建設及びそれに囲まれる屋根付き広場の案が示されている。また、駅前東館跡地は民間開発をするということ、駅前東館跡地活用支援等の予算が約900万円計上されている。

答 駅前東館も市の所有であり、庁舎を駅前西館を中心に移転し、入りきらない部分を今後駅前東館に設置される公共民間施設に移転するという案を検討の一つに加えたかどうか。この案は財政的にも有利で、駅前活性化にも寄与する。庁舎を駅前建設することは目的ではなく手段の一つである。

問 民間開発について反対意見を持つている訳ではない。それが出来たら理想だ。現在、駅前東館跡地活用事業の用途はどのような状況か。具体的に民間からの問い合わせはあるのか。また、駅前に設置されるであろう施設の活用がスタートする時期はいつを目標にしているのか。駅前活性化のスピードを上げてもらわないと困る。庁舎整備検討会議でも駅前移転を支持する声もあり、私の提案も移転案の一つとして追加していただきたい。

答 問い合わせは数社からあるが、施設のオープン時期は、整備する内容によっても異なるため、未定である。



駅前東館跡地・西館



まつらら よしかず
松浦 良一 議員

常備消防拠点施設事業の促進について

問 新市建設計画によると、合併に伴い消防体制を再編し、久井町内に分署施設を計画され平成26年度に建築するとあるが、この分署事業の進捗と経緯について尋ねる。

答 消防本部では、久井地域を含め管内全域で消防力強化が必要な地域を抽出し、消防力の見直しを行い、将来的に管内一様の消防サービスが行き届くよう適正配置を重点事務事業として検討を進めている。

問 三河地区かんがい排水事業について次の三点について尋ねる。
①この事業の進捗状況と今後の事業推進は。
②26年度以降の事業見込みと事業終了時期の見通しは。
③ダム事業に係る本市の主幹、支線配管工事と市道の、農道の整備等の事業費の負担割合とその負担額について聞く。

答 三河地区一帯のかんがい排水事業は、受益面積約400ヘクタールの農地に安定した農業用水を供給するため、広島県が行っているものである。



みごうダム

また、県施工事に伴う市道農道の未舗装路線の整備を図っていく。



新元 昭議員

林道久和喜竜王線について

問 近く完成予定の林道久和喜竜王線はどのような観光的対応を持って取り組まれているか問う。

答 竜王山の山頂部は、瀬戸内海国立公園の特別地域に指定されており、ここからの多島美は、本市の誇れる観光資源であり、整備中の林道は幅員7メートル2車線で大型観光バスの通行が可能、駐車場もバス5台、乗用車20台分を新たに整備、トイレについても新設の予定である。その他法面吹付や車両防護柵にも景観を配慮した施行としている。

問 計画当初からの課題であったJRの踏切問題、誘客のための愛称募集や看板設置などについての考えは。

答 踏切問題についてはJRとの協議で7メートル幅への拡張で了解を得ている。

愛称や看板については、観光的対応として、更なるイメージアップに貢献することから、関係機関と連携を図り検討する。

市道登町1号線（筆影竜王線）について

問 久和喜竜王線の開通に伴いかなりの利用増加が予想されるが、観光的視点での整備計画は検討されているか。また筆影山もサイクリングロード「筆影山ヒルクライムルート」として指定されているが、今後の延長も視野に狭小道路の路肩へ防草コンクリートをすれば見栄えもいし、安全安心にもつながる。

昨今問題のイノシシ対策にも有効と思うが考えを問う。

答 この路線は、瀬戸内海国立公園の法的制限も



筆影竜王山からの絶景

あり、2車線での規格改良は困難である。しかし、交通量の増加が見込まれる中で、待避所の設置や部分改良は検討し、防草コンクリートについては維持管理費削減の観点からも有効であり併せて検討する。

問 この路線には絶景ポイントが何か所かあり、待避所設置には国立公園であるがゆえの配慮として絶景ポイントが生かせる車止め等を含めた検討が必要と思うが考えは。

答 多島美を臨む展望スポットには観光振興の観点から駐車場、撮影スポット、観光案内板など安全面とスペースの確保が可能であれば検討する。



仁ノ岡 範之議員

教育問題について

① 中学校生徒会連合会について

問 中学校生徒会連合会が設立されたが、市長は、連合会の活動をどのように思われ、何を期待しているか。

答 中学生は将来の三原を支える存在であり、ふるさと三原のためにながろう、できることはやろうと自分で行動を始めたことが何よりもうれしく、心強く思っている。連合会の活動を通して、ふるさとへの感謝の念と愛着を深め、自分たちにも社会を変える力がある、貢献できるという思いを高めることを期待している。

問 連合会は、教育委員会と校長会が語りかけて誕生したが、背景や意図、方向性について教育長に聞く。

答 生徒会の連携は、生徒会活動の充実につながる

り、社会の一員としての自覚が高まる。今年度は、世界の困っている人を助けることを目的に、全校でエコキャップを回収する。今後は、連合会の活動を見守り支援をしていく。

問 本郷地域で、統合校の場所を南方小学校とし、統合年度を2年後の28年4月にした理由は何か。また、3校統合の構想は何か。木原小学校と糸崎小学校の統合の現状と課題、並びに今後の方



公立中学校生徒会連合会の市長表敬訪問

問 ② 小学校の統廃合について

答 小学校で8件、中学校で12件、そのうち7件は、悪口を言われる、かわられる、頭をグリグリされる等の内容で、回数は1回から2回程度。他の13件は、物を隠されたり、無視されたり、避けられたり、たたかれる等、すべて解消している。

針は。
答 学校適正配置基本方針及び実施計画に基づき、場所を児童数の多い南方小学校とし、増改築して使用することにした。また、統合校のためのハード・ソフト面の準備にどうしても2年程度必要。

木原小学校と糸崎小学校の統合について、木原小学校は、27年度から全学年複式学級となり、28年度以降30人未満となる。保護者や地域に統合の説明をしているが理解の段階に至っていない。引き続き実現に向かって努力する。

③ いじめについて

問 昨年度いじめは何件あったか。その内容は、すべて解消しているのか。

答 小学校で8件、中学校で12件、そのうち7件は、悪口を言われる、かわられる、頭をグリグリされる等の内容で、回数は1回から2回程度。他の13件は、物を隠されたり、無視されたり、避けられたり、たたかれる等、すべて解消している。



かめやま ひろふみ
亀山 弘道 議員

子ども・子育て支援法について

問 本市には「子育て支援課」はあるが「子ども支援課」はない。子ども・子育て支援法では、子どもへの支援と養育している者への支援を明記している。両方をするというものだ。「子ども支援」をどのように進めようとしているか。

答 「みはら子育て応援プラン」を策定し子どもがのびのびと育ち、子育てが楽しいことを実感できる環境づくりに向けて取り組んできた。

基本目標の中に「子ども支援」の視点に立った項目も掲げ、取り組みを行っている。

問 基本目標の中に「子育てしやすい生活環境の整備」として公園・遊び場の充実」が掲げられているが、これを「子どもが育

つための生活環境の整備

として公園・遊び場の充実」にしたなら、内容が変わってくるはずだ。もっと子ども本人への支援に

焦点を当てて「子育て支援」だけでは足りない部分のカバーをすべきだ。

答 子どもは、成長とともに「子ども支援」と「子育て支援」のバランスが変わり、子ども自身への支援のウェイトが高まると認識しており、現在策定している「子ども



子ども・子育て支援の冊子

も・子育て支援事業計画」において「安心して子どもを産み育てられるまち」の実現に向けて「子ども支援」や「子育て支援」に関する具体的な施策について盛り込んでいく。

民意の把握について

問 各種計画策定時のアンケートの回収率が低いが民意を把握できているのか。他に方法はないのか。

答 回収率からは全体の傾向、地域別の傾向は、把握できていると認識している。今後もアンケート回収率が上がるよう工夫する。市民意見の聴取方法として「広報みはら」に加え、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の活用も検討する。

問 協働のまちづくりの観点からのアンケート依頼になっているか。また結果が役に立ったことの報告はされているか。

答 協働のまちづくりの観点で依頼をしていく。報告は、広報等でできているつもりだ。



ひらもと えいじ
平本 英司 議員

消防庁舎建て替えについて

問 三原市消防庁舎の問題点は、ピロティ構造という車庫の上に事務所や待機室がある構造であることから、地震発生と同時に車庫が潰れてしま

い、車両は出動できなくなるという点と、もう一つは、現在の消防庁舎の位置では、地震発生後数時間たってから津波が来た際に、車両が庁舎に帰れなくなるという点である。

これらのことを考慮しても、消防署の現在の位置は防災上適した場所にあるとは考えにくいのが現状だが、消防庁舎の建て替え計画についてはどのようになっているのか。

答 適正配置の方向性を定めた後、今年度内にスケジュールを策定し、その事業について合併特例債の期限の中で整理していきたいと考えている。

この方向性が決まれば、関係部署、関係団体と調整後、今年度内早期に議会にも報告していきたい。

ふるさと納税について

問 本市においては、他市に比べ商品の種類が豊富なことから、寄附件数、金額とも近年大幅に増加しており、平成25年においては1933件、2135万4千円の寄附となっている。

これら寄附金は、本市の夢ある未来づくりに活用するため、三原夢基金に積み立てられ、現在の総額は5670万353

9円である。寄附時に行うアンケートでは、「子どもたちの健やかな成長を応援する事業」への活用の期待が大きいことが伺えるが、活用方法についてどのように考えているのか。

答 基金の活用に関しては、応援をいただいた寄附者の意向も踏まえつつ、既存の施設や地域資源との相乗効果も勘案し、ふるさと三原の新たな集客を図る交流施設、設備の整備など、提案を含め幅広く検討していきたい。



ふるさと納税チラシ